



笑顔輝く女性研究者 in SOCU



山陽小野田市立
山口東京理科大学 **ダイバーシティ推進室**

文部科学省人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」

ごあいさつ

「ダイバーシティ」とは、通常「多様性」と訳され、社会において人種・国籍・性・年齢は問わずに人材を活用することを意味します。多様な視点を取り入れることによって、社会的な総合力を高めることが目的です。

SDGs (持続可能な開発目標) では、③すべての人に健康と福祉を、④ジェンダー (社会的・文化的な性別) 平等の実現、⑧働きがいも経済成長も、⑩人や国の不平等をなくそう、⑯平和と公正をすべての人に、など17のゴールから構成され、障がい者、外国人、性的マイノリティーをはじめ、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。日本でも様々な取り組みがなされていますが、各国における男女格差を測る「ジェンダーギャップ指数」(2023年) では、日本は146か国中125位であり、過去最低でした。

本学の調査(令和5年度)では、女子学生の割合が36.3%、女性教職員割合は30.1%(女性教員10.3%、女性職員48.1%)、女性管理職員の割合は30.0%でした。

本学で、「男女ともに活躍できる大学を目指す」ために、令和3年8月に「ダイバーシティ推進室」が設置がされました。2030年までの行動計画を策定し、学生にとってより良い教育環境を構築し、地域に貢献できる人材を育成する取り組みを進めています。



ダイバーシティ推進担当副学長・室長
井上 幸江

RESEARCHERS 01

自分の大好きなことができ、社会にも貢献できる研究者は幸せ者

研究テーマ

Research
Theme炎症性疾患やガン、老化から
身体を守る遺伝子スイッチの解明薬学部 薬学科 病態生化学分野
教授 井上 幸江 INOUE, Sachie

研究内容

私たちは、時々刻々と変化する体内および環境の変化に適応することによって、生存しています。この環境適応システムは非常に複雑であり、多くの遺伝子が関与しています。私はその中で、様々な病気の発症に関わる「酸化ストレス応答」に関わる遺伝子スイッチの研究を行っています。ヒトの遺伝子は、約25000-30000個ありますが、そのすべてがオンになっているのではなく、必要に応じてオン・オフのスイッチが巧妙に調節されることによって、生命が維持されています。また、1つの遺伝子のスイッチは、1つではなく、複数のスイッチによって、細かく制御されています。その仕組みを明らかにすることによって、病気の原因解明や治療薬の開発に繋がりたいと思い、研究を行っています。

研究者になったきっかけとこれからの夢



すべての人に桜梅桃李の花は咲く

薬学部の学生だったころ、ある教師から「Unity and Diversity」つまり、正常な細胞と異常な細胞の共通点と相違点を明らかにすることが創薬の基本である、と教わったことが生化学の研究者への道に入った原点です。生命現象の研究を進めて行けばいくほど、その巧妙さに感動するとともに、さらに疑問が増えていきます。この研究生活の面白さを次世代の若き研究者に伝えることが私の夢です。

RESEARCHERS 02

どんな化合物でもきれいに合成してみたい！

研究テーマ

Research
Theme

発がんと制がんの有機化学

薬学部 薬学科 有機薬化学分野
教授 稲見 圭子 INAMI, Keiko

研究内容

薬学における有機化学の知識を基盤として、「生理作用を持つ」新規有機化合物の合成と化学的反応性、生体分子との相互作用を検討することで活性発現機構の解明に関して研究しています。特にがんの発生と制御を有機化学的に解明することが目的です。がん予防では、N-ニトロソ化合物の発がんを抑制する成分の探索研究をはじめ、活性酸素消去化合物や一酸化窒素供与体など、がん予防に寄与する新規化合物の創製に取り組んでいます。制がん研究ではがん治療によるがんの制圧が目標です。多くの制がん剤は有効で種々のがんの治療に用いられていますが、重大な副作用を併せ持っています。そこで、副作用を軽減させるような制がん薬も開発しています。

研究者になったきっかけとこれからの夢

これまでに存在が知られていない新規化合物の合成にチャレンジしてみたかったことから、有機薬化学研究室に入門（弟子入り）しました。その後、「新規生理活性物質や不安定化合物が、どうしたらきれいにうまく合成できるか」だけを考えながら、日々合成の腕をあげるために張り切って合成していたら、今に至りました。

今後も自分にしかできない研究をコツコツと続けていくとともに、将来の夢は、何事にも真摯に取り組み、後輩達の面倒をよく見る学生を育てることです。また、大学教員となるような人材も育てたいです。

RESEARCHERS 03

病院薬剤師を経て、薬学部教員の道へ 地域課題解決研究に挑む研究者

研究テーマ

Research
Theme幼児も“ハイッ!”と
カルタで学べる感染症予防

—未就学児施設の感染対策指導状況と教育ツール開発—

薬学部 薬学科 薬学倫理学分野
講師 坂井 久美子 SAKAI, Kumiko

研究内容



COVID-19の流行が続く中、幼児の感染対策教育は感染拡大防止の観点から重要です。しかし、各施設の感染対策教育の把握は非常に困難です。私は、地域課題解決研究を軸に、まず山陽小野田市近郊の幼稚園や保育園等の感染対策指導の現状を調査しました。また、子供たちの感染対策支援を目的に「幼児のための感染対策カルタ」を開発し、その評価を検討しています。これからは、開発した教育ツールの活用を幼稚園や保育施設等に限らず、広く地域で活用できる事案を検討し、研究を行って行く予定です。

研究者になったきっかけとこれからの夢

研究の道に進む最初のきっかけは、4年制薬学部を卒業後、大学院時代の研修先で出会った女性研究者に憧れたことです。その後、働きながら研究を継続できる社会人大学院生（博士過程）として更なる研究を行いたいと考えました。

将来の夢は大学研究者として、地域の課題を解決する研究にこれからも取り組み、子供たちの感染対策支援および感染対策教育において地域に貢献できる研究を続けて行くことです。

RESEARCHERS 04

国際的に活躍する、世界をリードする女性研究者

研究テーマ

Research
Theme世界初の製剤技術で
組織再生治療の未来を切り開く薬学部 薬学科 薬剤学・製剤学分野
講師 堀口 道子 HORIGUCHI, Michiko

研究内容



誰もが安心して病気の治療ができる社会の実現のため、より安全で効果の高い薬や治療法の開発に取り組んでいます。アメリカ合衆国ニューヨークのコロンビア大学医学部で幹細胞やガンの研究を実施し、山口東京理科大学で幹細胞製剤を開発する研究室を立ち上げました。世界初の技術でこれまで治療ができなかった病気に対する新しい再生治療法を開発しています。この研究によって、病気で失った臓器を再生させる新しい治療の普及を目指します。

研究者になったきっかけとこれからの夢

家族がガンになったことをきっかけに薬学の道を志し、治療の難しい病気に対して、新しい薬や治療法を開発するために研究者になりました。

今は治らない病気を克服できる未来を創造するために、新しい技術を駆使した幹細胞製剤を開発する世界最大の拠点を構築していきます。



RESEARCHERS 05

先人から受け継いだバトンを次世代に繋げる研究者へ

研究テーマ

Research
Theme

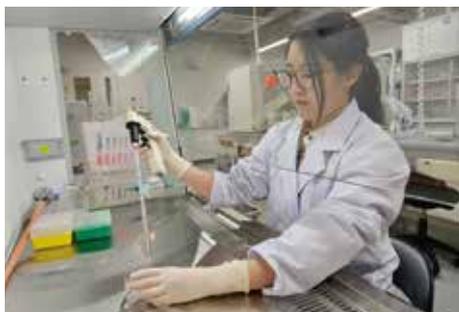
精神疾患を引き起こす
タンパク質の形を明らかにし、
疾患の原因を探る

薬学部 薬学科 生命物理化学分野
助教 杉山 葵 SUGIYAMA, Aoi



研究内容

近年、4人に1人が何らかの精神疾患に罹患している報告があるように、精神疾患は身近なものになりつつあります。一方で、疾患の原因が不明な場合も多く、診断・治療法の確立が困難な現状があります。近年、うつ病の原因遺伝子解析が進められる中、特定のウイルスの遺伝子



子が、ヒトのうつ病発症リスクを高めていることが分かってきました。ヒトの体内では、このウイルス遺伝子をもとに産生された原因タンパク質が、うつ病の発症を促進すると考えられています。タンパク質によるうつ病発症促進の分子機構を明らかにすることは、根本的な治療法の確立や、客観的な診断指針を立てる上で役立つと考えています。

研究者になったきっかけとこれからの夢

大きなきっかけは、コロナ禍で過ごした、大学院生生活(博士後期課程)でのある気づきです。当時、新型コロナワクチンの開発速度の速さに驚くとともに、その背景には、過去に流行した、SARSを引き起こす類似ウイルスについての研究知見が役立つ事実があると知りました。先人から受け継いだ知見を次世代に繋ぐことが、人類の危機を救うことにつながる点が研究の魅力の一つであると感じ、今に繋がっています。私も先人から繋いだバトンを正しく受け取り、同じ時代に生きる人々との交流を大切にしながら、次の世代に託せる研究者を目指したいです。

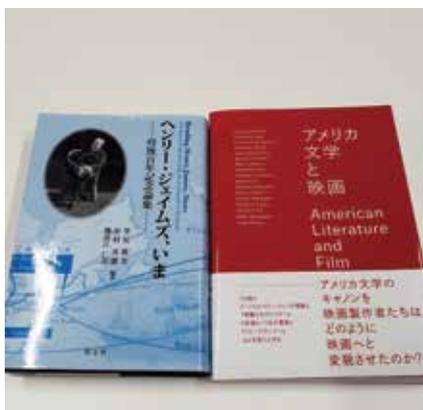
RESEARCHERS 06

文学作品を常に新たな視点で読み返し、新たな発見を目指す

研究テーマ

Research
Theme19世紀アメリカ文学
少女小説に見るヒロイン像
文学作品と映像化共通教育センター（英語系科目）
教授 堤 千佳子 TSUTSUMI, Chikako

研究内容



19世紀のアメリカ人作家ヘンリー・ジェイムズを中心に研究しています。特にモダニティの観点から、作品の中で描かれている女性たちについて、社会の中での立場、人間関係の渦に巻き込まれるきっかけとなる財産の贈与、男女関係、他者を操る他の登場人物たちとの関係などの視点から考察しています。また、読者も登場人物も少女である、女性作家による「少女小説」や、文学と映像文化の関連についても研究を重ねています。SDGsやダイバーシティの観点からも作品に向かい合っています。

研究者になったきっかけとこれからの夢

中学生の時に出会った2人の英語の先生に英語を学ぶ楽しさや言語の奥深さを教えていただき、何よりも英語が好きになりました。大学では「英語」を勉強したいと思い、外国語学部に入りました。もともと読書は好きでしたが、授業の中で「文学」の面白さに開眼し、大学院で文学を専攻することに決めました。人間を描くという点で、文学には普遍性と不変性があり、また同時に時代に合わせて変化していく柔軟性もあります。これからも様々な視点で作品に取り組み、追及していきたいと思っています。

RESEARCHERS 07

版画(リトグラフ)の制作と発表の活動をしています

研究テーマ

Research
Theme

日本現代版画が国際的にも評価が高く、
世界最高水準にあるのは
浮世絵という土壌があるからです。

共通教育センター(芸術系科目)
教授 縄田 也千 NAWATA, Yachi



研究内容



浮世絵は「描く・彫る・刷る」が分業化されていましたが、現代はそのプロセスを作家一人で行う創作版画が主流です。版画といっても様々な版種があるのですが、大学院の頃からリトグラフの制作・発表を中心に活動しております。クレヨン等で描いたものがそのまま刷れるのが魅力ですが、木版刀による彫りの凹凸や銅板腐蝕による物質感もないため、版が不安定でつぶれ易く、職人的技術を持っていないと、刷ったものが版に描いたものとはほど遠いものになってしまいます。何年たっても習練が足りないことを痛感しながら、生涯リトグラフというやっかいな技法と向き合い、質の高い作品を制作していこうと思っております。

研究者になったきっかけとこれからの夢

環境的な要因も大きかったと思います。父親が東京藝術大学出身であったため、アトリエが自分の部屋でした。芸大工芸科を目指して美術系予備校に通っているうち、事務室に展示してある版画に衝撃を受けて進路変更しました。当時、版画は油絵科に属する美大が多かったのですが、女子美術大学のみ「版画科」が独立して存在し、しかも募集定員が20名という条件を見て「これだ!」と直感して入学しました。思い返せば、小6の夏休みにトランプ裏に印刷された広重「東海道五十三次」の小さな絵を頼りに単色ペンで全て模写した経験があり、版画に縁があったのでしょう。

RESEARCHERS 08

普段あまり意識しないことを、敢えて意識してみたいと考える研究者

研究テーマ

Research
Theme

愛とは何かを探る

— 目には見えないが、
確実に存在している大切なものを言語化する —

共通教育センター（英語系科目）

准教授 池田 容子 IKEDA, Yoko



研究内容

イギリスの文学作品、特にJane Austen (1775 - 1817) の作品を通して、「愛とは何か」、そして「愛はどのように芽生え、育まれ、存在し続けるのか」を探っています。目には見えませんが、



この「愛」とは一体何であるかを、自分の言葉で説明できたらと考えています。パソコンやスマホ等の文明の利器のおかげで、コミュニケーションは気軽に手軽なものとなりました。しかし、他者と深く関わろうとするのであれば、これらの機器よりも、もっと重要な役割を果たす何かがあると私は考えています。私達の暮らしを、より豊かにしてくれるであろう、この「何か」を探し求め、文献に当たっています。

研究者になったきっかけとこれからの夢

学生の頃、いわゆる名作と呼ばれる本を自分で読んだのですが、その時は全く面白いとは思いませんでした。ところが、大学の先生の解説をお聞きしながら再度読み進めると、同じ作品が非常に面白い作品に大変身していたのです。私も先生みたいになりたいと思いました。

将来は、今まであまり読書に親しんだことのない方々も含め、より多くの人達と文学作品の面白さを分かち合うことができると考えています。そのためにも、易しい言葉でわかりやすく解説できることを目指しています。

RESEARCHERS 09

研究生活は退屈とは無縁 面白さと興味を動力に取り組む量子物性の研究

研究テーマ

Research Theme

超伝導と磁性の機構に見える 量子物性の面白さ

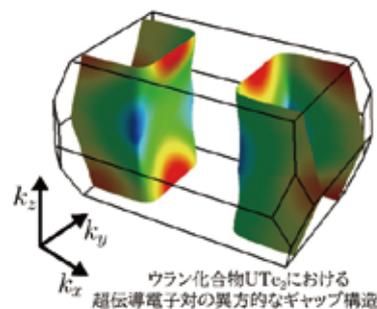
～電子状態と多体問題から探る～

共通教育センター（物理学・物性理論）
准教授 兼安 洋乃 KANEYASU, Hirono



研究内容

超伝導や磁性の量子機構の研究に取り組んでいます。超伝導は電子がペアとなり、様々な状態を現わします。その発現機構は電子状態と電子相関などに関係し、磁性にも繋がる場合があります。また温度、磁場、圧力の変化で状態を変えて多様であり、特にf電子系化合物ではその



機構の多くが未解明です。この超伝導機構を理解するには、化合物を構成する原子の元素種類と結晶格子の特徴をとらえて、電子の量子性から理解していくことが必要となります。この化合物のモデルに対する数式とコンピューターを用いた解析から、機構解明に向けた研究を行っています。超伝導のミクロな物性や機構を理解して新物質開発へ繋がれば、エネルギーや量子コンピューター等の応用への寄与も期待されます。

研究者になったきっかけとこれからの夢

元々数学や物理が好きでしたが、大学の学部1年までは割とぼんやりと過ごしていました。その後、学部2年生で電磁気学のマクスウェル方程式を学んで衝撃を受け、スイッチが入り、量子力学、統計力学と学ぶうちに更に面白くなっていきました。卒業研究や大学院で実際の物質を対象とした理論研究を行い、超伝導と磁性の性質に興味を待ちました。その興味が今に続いています。電子状態と電子相関による多体問題の点から理論的に調べていくことで、新しい機構に気が付くこともあるのが面白いと思います。その面白さを学生と共有して進んで行ければと思います。

RESEARCHERS 10

人間の言語の力を解明したい

研究テーマ

Research
Theme言語は人の思考に
どのような影響を与えるのか

—眼球運動測定装置を用いた言語相対説研究—

共通教育センター（英語系科目）

准教授 田島 弥生 TAJIMA, Yayoi



研究内容

私たちは言語を使ってものを考えています。言語を全く介さずに何かを考えようとしても、それはとても難しいことです。そうだとすれば、私たちの思考は言語の影響を受けているのではないか、私たちの見ている世界はみんな同じというわけではなく、自分が普段使用している言語



によって少しずつ違うのではないかという考え方を言語相対性理論といいます。この理論に基づき、周辺情報から言語化する日本語母語話者の周辺認知と、日本語とは異なる情報構造を持つ英語母語話者の周辺認知とを眼球運動測定装置を用いて比較し、言語と認知の関係について検証しています。

研究者になったきっかけとこれからの夢

研究の道に進むきっかけは、当時勤めていた会社が倒産したことです。それを機に英国の大学院に留学し、面白い先生や研究に出会ううちに言語と思考の関係についてもっと研究を深めたいと考えるようになり、博士課程に進学しました。

今後は、英語の文章を解説しようとしているときの眼球運動を計測して、学習者の頭の中では何が起きているのか、どうすれば英語の文章を楽に読めるようになるのかについて、研究を進めていきたいと考えています。

RESEARCHERS 11

子どもの『声』を伝える研究者に

研究テーマ

Research
Theme子どもの支援の在り方について
考える

共通教育センター（心理学）

准教授 福田 みのり FUKUDA, Minori



研究内容



子どもはどのようにして新しい概念を獲得していくのでしょうか。数の概念や科学的な概念をどのように獲得するのか、どこでつまづくのかを研究し、その支援の方法について考えています。

また、子どもにとって相談しやすい相談支援の在り方についても研究しています。子どもを権利の主体とした相談支援とはどのようなもので、これまでの相談支援と何が異なるのか、またそのような支援が子どもにとってどのような意味を持つものなのかについて心理学的視点から研究しています。

研究者になったきっかけとこれからの夢

専門分野をもっと学びたいと思い大学院に進学しましたが、修士課程では研究者には向いていないのではないかと考えることも多く、修了後はこれまでの自分の興味関心を活かすことができそうな子どもの相談現場で働くことを選びました。「子どもにとって一番よいこと」を子ども自身と様々な専門家（法律、福祉学、社会学、教育学など）とともに考えていくという実践の中で、研究や教育を通して子どもたちの現状についてもっと多くの人たちに伝えたいと考えるようになりました。

「困っている当事者である子ども自身にまずは話を聴いてみよう」と誰もが当たり前のように考え、実行される社会になることをめざし、研究を行なっています。

RESEARCHERS 12

バランス能力はどのようにして獲得されるのか

研究テーマ

Research
Themeヒトの立位姿勢制御における
運動経験や発育発達・加齢に伴う
可塑性に関する研究

共通教育センター（身体運動科学）

講師 大庭 尚子 OBA, Naoko



研究内容

「気を付け」をして立っているとき、自分では静止していると思っているかもしれませんが、私たちヒトは動いています。ヒトは他の哺乳類と違って2本脚で直立姿勢を保っており、支持基底面が大きく重心の位置が低い4本脚の動物の立位よりも構造的に非常に不安定で、逐次、制御



する必要があります。我々ヒトが発育発達や運動経験、トレーニングを通して両脚や片脚での立位姿勢制御について、目や皮膚、関節、筋、前庭などの感覚器からの情報を脳がどのように処理し、どのような運動指令を筋に送っているのかを解明することを目指しています。



研究者になったきっかけとこれからの夢

ダンスが好きでダンスで食べていけるようになりたいという気持ちと、ヒトの身体の仕組みに興味があり、浪人したらダンスの道をあきらめて医学の道に進みたいという気持ちがありました。現役で合格したのがお茶の水女子大学の舞踊教育学コースでした。プロダンサーにはなっていませんが、気づいたらダンスなどの運動を教えたり、ヒトの動きを制御する仕組みを研究したり教育研究の道を歩んでいました。これからの大きな目標は「片脚立位姿勢制御とえば、この人!」と言ってもらえる研究者になることです。

RESEARCHERS 13

問いに向き合いつづけるということ

研究テーマ

Research
Theme

廃棄物利用による エネルギー循環システムの構築

工学部 機械工学科 エネルギー・環境分野
准教授 神名 麻智 KANNA, Machi



研究内容

国内で供給可能な再生可能エネルギーの利用率を上げるために、特に廃棄物系バイオマスのエネルギー変換に着目しています。近年は SDGs の取り組みから廃棄物の再利用も多岐にわたり進んできていますが、まだまだ利用されていないものもあります。その中で、私が注目したのは未利用熱です。農業、畜産から排出される廃棄物を堆肥に変える際、発酵熱が生成しますが、その熱はそのまま廃熱として大気に放出されています。この捨てられている熱を何かに利用できないかと考え、研究をスタートさせました。熱を効率的な仕事に変えることおよび、堆肥化の発熱過程で関わる種々の微生物の複雑な反応を含めた熱移動機構を明らかにすることが私の研究目標です。

研究者になったきっかけとこれからの夢

小さいころから科学系の雑誌などを見て、科学になんとなく興味を持ってはいましたが、高校生の頃に自分も将来こういう研究をしてみたいと、ふと思ったのがきっかけです。研究はうまくいかないことなどの連続ですが、それも含めて研究ができていること、わからないことを考えるという日々感謝しています。

これからの夢は、どのくらいできるかわかりませんが、未知なる現象のほんの一部でも明らかにすることです。

RESEARCHERS 14

小さなナノで大きな変化 - 新しい素材で未来をつくる

研究テーマ

Research
Theme

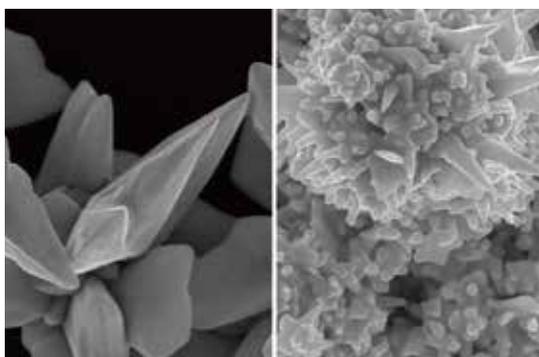
ナノ・マイクロスケールで
精密構造制御した
触媒・電子材料・光機能性材料の開発

工学部 応用化学科 ナノ材料化学・界面化学分野
講師 Ke-Hsuan Wang



研究内容

物質のサイズがナノメートル程度になると、物理的・化学的性質が変化し、バルク材料と異なる特性を示すようになります。当研究室は、遷移金属や貴金属材料を精密に構造制御することで、



触媒・光機能性材料・電子材料などの材料開発を行っています。たとえば、金の化学還元において、ハロゲンイオンの添加により、金ナノ粒子の形状を自在に操ることができます。これらの材料開発にあたり、その場合分光測定を行い、材料のメカニズムを解明することで、より高効率な材料開発を目指していきます。

研究者になったきっかけとこれからの夢

研究者への道は、学生時代に研究室で行った課題研究から始まりました。仮説を立て、方法を考案し検証し、結果を考察するプロセスは地味ながらも重要です。新しい「もの」ができたときや、それまで知られていなかった現象を発見したとき、そして独自の理論を導けたときの喜びは筆舌に尽くし難いものがあります。これらの経験から、科学の魅力を次世代の若者たちに伝え、自分自身の科学的な夢を見つけ、追求できるように導くことを目指しています。

➤ SITUATION 現在の状況

山陽小野田市立山口東京理科大学の事務局では、男性29名、女性43名の事務職員が勤務しています。(令和5年4月1日現在。専任職員、臨時職員、派遣職員を含む)

【部局紹介】

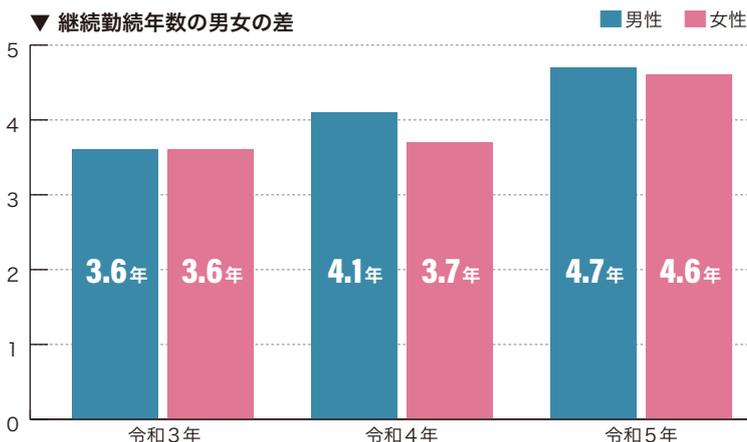
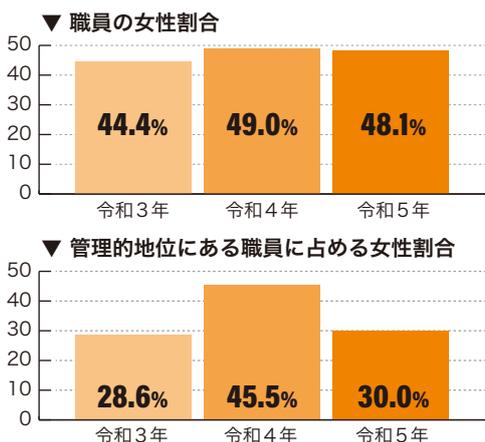
- 総務部／総務課・人事課・財務課
- 管財部／施設管理課
- 入試広報部／入試広報課
- 学務部／教務課・学生支援課・学術情報システム課
- 図書館事務室
- キャリア支援部／キャリア支援課
- 研究推進部／研究推進課
- 地域連携・生涯学習部／地域連携・生涯学習課

【数字で見る女性の職業選択に資する情報(事務職員)】

専任事務職員では、職員の女性割合や管理的地位にある職員に占める女性の割合も増えており、勤続年数の男女差異も少ない状況です。

総務課では、理事長秘書業務、学部、学科等の新設、改編及び廃止に関する業務、他の課及び係の所掌に属しない事務に関する業務など多岐にわたる業務を担当しています。
 本学では年々女性の割合が増加しており、それに比例して管理職以上の女性の比率も増えていて、性別に関係なくキャリアアップが見込める状況になっています。
 さらに子供をもつ母親としての一面と職員としての一面、その両立をサポートしてくれる制度や同僚に囲まれており、働く母親としての私にとって、理想的な環境を提供してくれていることを実感しています。

総務部総務課係長からのコメント



PICK UP! **さまざまな取組で支援しています**
 各種支援の詳細は19ページをご覧ください。

【育児支援】
 仕事と子育てを両立するための支援で、3歳から12歳の学童を対象にした学校などの長期休暇中や学内イベント時に学童保育・一時預かりを提供しています。



写真：過去の実施の様子

EFFORT

推進事業の取組

- 2023年度**
 - ・ダイバーシティ関連セミナー
 - ・「やまぐち子育て応援企業」および「やまぐちイクメン応援企業」に登録
 - ・女性研究者支援事業・育児介護支援事業各種
 - ・チルドレンデイキャンプ

- 2022年度**
 - ・ダイバーシティ関連セミナー
 - ・大学開放デーでのダイバーシティ関連企画
 - ・女性研究者支援事業・育児介護支援事業各種
 - ・チルドレンデイキャンプ
 - ・ダイバーシティに関するアンケート

- 2021年度**
 - ・やまぐち健康経営企業として認定
 - ・ワークライフバランスに関する教職員の意識調査を実施
 - ・女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく一般事業主行動計画を策定
 - ・ダイバーシティ推進本部及びダイバーシティ推進室を設置

- 2020年度**
 - ・文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に参画
 - ・女性活躍推進担当副学長を設置
 - ・女性活躍推進委員会を設置
 - ・女性活躍推進計画を策定
 - ・障害者活躍推進計画を策定

- 2019年度**
 - ・障がい学生支援コーディネーターを配置
 - ・特別休暇の適用範囲の拡大

- 2018年度**
 - ・やまぐち男女共同参画推進事業者として認証
 - ・学生リーダーズキャンプで聴覚障害の特性及び聴覚障害者のためのノートテイク勉強会を開催

- 2017年度**
 - ・障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領を策定
 - ・学生のための健康セミナー「LGBTsの基礎知識」を開催

- 2016年度**
 - ・市民のためのサイエンスカフェ「リケジョが語るサイエンスへのご招待」を開催
 - ・母性健康管理のための休暇が取得できる制度を改正



PLAN

女性活躍推進計画

女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画

山陽小野田市立山口東京理科大学は、女性はその個性と能力を十分に発揮できる社会を実現し、男女ともに教職員全員が活躍できる大学となることを目指し、次のとおり女性活躍推進のための行動計画を策定し、取り組みを進めます。

1. 計画期間

2021年4月1日から2025年3月31日まで

2. 本学の課題

教育職員に占める女性の割合が低く、また、女性が管理職を目指したいと思える環境整備が十分ではない。男女ともに、仕事と生活の両立を図る組織的取組をより充実させる必要がある。

3. 目標と取組内容・実施時期

【目標1】教員の女性の割合を15%以上にする

- ワークライフバランス推進及び女性活躍推進について、トップから発信する。
- 男女共同参画セミナーを実施し、女性活躍や女性登用に関する意識を高め、女性が活躍しやすい職場風土の醸成を図る。
- 女性に限定した教員公募、女性を優先した教員公募を実施する。
- 育児や介護といったライフイベントと仕事との両立、業績評価や仕事環境、キャリアアップ等に関する教職員の意識調査を実施する。
- 学童保育・一時預かり保育を実施する。

【目標2】女性の教授の割合を12%以上にする。

- ワークライフバランス推進及び女性活躍推進について、トップから発信する。
- 男女共同参画セミナーを実施し、女性活躍や女性登用に関する意識を高め、女性が活躍しやすい職場風土の醸成を図る。
- 教育職員の昇任制度の見直し、昇任基準の明確化を図る。
- 教員を対象に、より高度な知識やスキルの習得とリーダーを目指す動機づけや意識を醸成するための研修等を実施する。



SUPPORT

各種支援について

女性研究者への研究支援

● 優秀な女性研究者への研究費支援経費

女性研究者個人又は女性研究者が研究代表の共同研究グループを対象に、原則として一件あたり40万円を上限に研究費を補助する制度です。

● 女性研究者が代表の共同研究費支援経費

女性研究者が研究代表の共同研究グループを対象に、原則として一件あたり40万円を上限に研究費を補助する制度です。

● 海外論文投稿費・別刷費用補助金

女性研究者のキャリアアップ支援事業として、学内で行われた研究で本学の女性研究者が応募論文の筆頭著者である場合に、原則として一件あたり5万円を上限に論文投稿費・別刷費用を補助する制度です。



育児・介護支援

● 研究補助員制度

出産・育児・介護等のライフイベントにより、十分な研究時間を確保できない状況にある教員等の研究活動の継続と研究力向上を図ることを目的として、「研究補助員制度」を実施しています。

<対象者>

本制度による支援対象者は、本学の教員で、配偶者を有する場合は原則として配偶者が就業している、若しくは特段の事情（配偶者の病氣入院等）を有する場合で、次の各号のいずれかに該当する者になります。

- (1) 妊娠中の者
- (2) 未就学の子（0歳から6歳の小学校に入学する前まで）を養育している者
- (3) 要介護状態にある家族を申請者自身が介護している者
- (4) その他、前各号に順ずるライフイベント上の事由により十分な研究時間を確保できない事情にあると本学が認める教員

<研究補助業務の内容>

実験補助、研究データの解析、統計処理、文献調査、発表資料作成等の研究補助業務に限ります。

<研究補助員の利用時間>

1教員あたりの上限利用時間は、ライフイベントの内容（養育する子の年齢等）によって異なります。

● 長期休暇時の学童保育における共同利用（山口大学主催「ヤマミイ学級」）

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）事業にて、2020年度から長期休暇時の学童保育の共同利用を開始し、連日多彩な体験プログラムが構成されています。

● チルドレンデイキャンプ

仕事と子育てを両立するための支援として、学校などの長期休暇中の学童保育・一時預かり保育を提供する制度です。3歳～12歳の児童を対象にした保育委託事業者による保育と学童に、本学独自のサイエンスの学びやアクティビティを組み合わせる企画です。

● 学内託児スペース貸出

ダイバーシティ推進室を利用した学内託児スペースは、学内で開催されるイベント時の保育にご利用いただける教職員のためのスペースです。利用者は保育者を手配したうえで学内託児スペースをご利用いただくことが可能です（要事前予約）。利用を希望される教職員は、お気軽にダイバーシティ推進室までお問い合わせください。

UD（ユニバーサルデザイン）マップ

山陽小野田市立山口東京理科大学では、ユニバーサルデザインの考え方をもとに、だれもが安心して過ごせるキャンパスづくりを実現するため、建物入口・スロープ・エレベーター等のバリアフリー情報等に関する情報を掲載したUDマップ（ユニバーサルデザインマップ）を作成しています。



多目的トイレの設置

車いす使用者や高齢者、子供（幼児）連れ、介助を必要とする人、LGBT（性的マイノリティ）の方など、さまざまな事情を抱えた人の利便性を考慮した、多機能トイレを設置しています。



CONTENTS

・ごあいさつ

・女性研究者の紹介

・現在の状況

・推進事業の取組

・女性活躍推進計画

・各種支援について



山陽小野田市立
山口東京理科大学 **ダイバーシティ推進室**

文部科学省人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」

〒756-0884 山口県山陽小野田市大学通1-1-1

TEL 0836-88-3500 FAX 0836-88-3400

<http://www.socu.ac.jp/>

